

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター
〒722-0033 尾道市東土堂町17-29天寧寺内
TEL.0848-25-2855
FAX.0848-25-4148
心の電話:0848-25-2860
HP http://kyouka-chugoku.com

印刷/(株)メディアアーツ TEL.0848-36-5671

曹洞宗中国管区 教化センターだより

平成二十七年 度 布教教化に関する告諭

曹洞宗管長 江川 辰三

私たちは、今、たくさん課題を前に、その生き方が問われています。

東日本大震災、大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故からすでに四年の月日がたちました。にもかかわらず、復旧復興の道のりはいまだ遠く、多くのご遺族や今も避難生活を余儀なくされている二十四万余の人びとの悲しみと苦難は計り知れません。

さらに、地球温暖化と多発する自然災害、戦争、貧困、格差、いじめ、そして自死等の深刻な問題が山積みしています。

この現実の中で、「人権の尊重、平和の実現、環境の保全」の取り組みを柱とし、自己中心的な快適さや便利さを求める暮らしを見直し、原子力に頼らない社会、一人ひとりのいのちが大切にされる社会の実現を願っています。

そのために、本年度も四摂法の一つである「布施」物でも心でも惜しみなく分かちあい、互いに生かすあうみ教えに学び、実践いたします。

道元さまは、「布施」とは貪らないことと示されました。それは、へつらうことなく、見返りを求めることのない生き方です。

瑩山さまは常に大いなる慈悲心をもって、一切の衆生に坐禅無量の功德をめぐらすように説かれました。

本年は、大本山總持寺二祖峨山韶禪師六百五十回大遠忌の年にあたります。皆さまともにこの勝縁を慶び、報恩のまことと捧げましょう。

峨山さまが身をもって示された「相承」のおとし、それは、み仏とご先祖の前で姿勢を調え息を

調え心を調べて静かに坐り、二仏両祖のみ教えを学び、受け継ぎ、そして実践を通して丁寧に伝えることとです。

私たちは、今、「布施」のみ教えを相承し、人びととともに、生きとし生けるものの安らぎを願い、ともに寄り添い、ともに歩む菩薩行をすすめてまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏

南無高祖承陽大師道元禪師

南無太祖常済大師瑩山禪師

平成二十七年 度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖のみ教えを敬い、坐禅に親しみ「ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む」ことを誓願とするものです。そして、現代社会において、人々の苦悩に向き合い、みなともに支えあひながら生きる慈悲心にもとづく信仰生活を実践してまいります。

本年度も「相承」のおとしのもと、峨山韶禪師六百五十回大遠忌奉修にあたり、次のように布教教化方針を定めます。

一、一仏両祖のおとなえの普及に努めます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを伝え合い、毎日の生活を送ります。

二、「相承」のおとしを実践いたします。

私たちは、峨山禪師六百五十回大遠忌にあたり、この法縁にあうことを慶び、至誠をもって宗務所、教区ならびに寺院ごとに法会を奉修します。

そして「相承」のおとしのもと、一仏両祖のみ教えを継がれた峨山禪師の御徳を讃え、そのご恩に報いるため、現代に生きる我われの生活

にみ教えを生かします。

三、あらゆる差別の撤廃と人権啓発の活動にとりくみます。

私たちは、菩薩の誓願をもとに、さまざまにかたちを変えていく差別やいじめ、虐待の実態等を直視し、その未然防止と問題の解決に努め、差別撤廃・人権確立のための歩みを続けます。

四、ともに喜びを分かち合える平和な社会の実現をめざします。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を忘れず、不戦を誓います。全世界の恒久平和実現のために、国や民族の垣根を超えた相互理解と協調による道をともに歩みます。

五、地球環境がすべての生きとし生けるものを支えていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動」(グリーンプラン)を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひとつであること深く自覚し、未来の地球の姿を思い、自らの快適さのみを求めない心で環境に配慮した生活をいたします。

六、孤立する人びとと向きあい、支えます。

私たちは、年間自死者数が未だ三万人近い状況を重ね受け止め、自死者や孤独死などを出さない地域社会のネットワーク作り、見守りに努め、また、遺族の苦悩に向き合い、支えます。

七、人びととの出会いの中で菩薩行を実践していきます。

私たちは、継続して被災地の支援を進めます。また悲しみと苦難の中にいる人びとに寄り添い、身近なところからのボランティア活動など、支えあう菩薩行につとめます。

八、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。

私たちは、過疎化の問題等を直視し、積極的に地域社会へはたらきかけるために、寺院を広く開放して活性化させ、人びととの絆をより強いものとしていきます。

峨山韶碩禪師六百五十回 大遠忌を迎えて

統監 田中 哲彦



今秋、十月二十日(火)、大本山
總持寺にて二祖峨山韶碩禪師さま
の六百五十回大遠忌の法要が法定
聚會として奉修されます。

峨山禪師さまは人材の育成に努
められ、「二十五哲」といわれる
二十五名もの俊才を育てられ、曹
洞宗を全国に展開しました。

中でも太源宗真・通幻寂靈・無
端祖環・大徹宗令・実峰良秀の五
人は「五哲」と呼ばれ、曹洞宗の
基盤を築かれました。

峨山禪師さまについては、「兩
箇の月」という有名な話が伝わっ
ています。

ある夜、月の下で坐禅をされて
いた峨山さまの側に、お師匠さま
の鑿山禪師さまが来られ、「峨山、
おまえは月が二つあることを知っ
ておるかな」と問われます。『は
て一つしか見えませぬ』、『それ
はまだ修行が足りないな』

峨山さまはお師匠さまの言葉の
意味がわからず、前にもまして一
心に修行に励みます。

二年が経ちました。鑿山禪師さ
まが再び尋ね、坐禅をされている
峨山さまの側で指を鳴らします。
ハッと驚く峨山さま。「やつとわ
かりました。」「言ってみよ。」「仏
さまは世界を照らす月。もう一つ
は、その光で人々に月のように澄

んだ心を持たせることが出来る月
です。月は一箇ではなく兩箇であ
る。世界を照らす月、照らされた
私も月です。」「よし、よくわかっ
てくれた。」「その後、鑿山さまは
峨山さまに總持寺をお任せになり
ました。

高祖さまのお示しになった正法
眼蔵・現成公案の中に「身心を拳
して色を見取し、身心を拳して聲
を聴取するに、したしく會取すれ
どもかがみにかげをやどすがごと
くにあらず、水と月のごとくに
あらず、一方を證するときは、一
方はくらし。」とあります。

照らすものがあるから、照らさ
れる、照らすものがなければ、照
らされることもない。照らされて
初めて光となる。その光が、また
光となる。

一方だけをみて、一方をみてな
い。一方を照らせば、一方は昏し、
である。

換言すれば、苦は苦に非ず、必
ず楽あり。楽は楽に非ず、必ず苦
かく、一方のみをみて、迷ってい
るのが衆生である。

大遠忌の標語「相承く大いなる足
音がきこえますか」峨山禪師さ
まの行跡を偲び、「兩箇の月」の
公案を参究することが、報恩の行
と感じております。 慈悲容納



管区長退任挨拶



鳥根県第一宗務所 所長
永見 勝徳

昨年十二月までの二年間、中国
管区長を拝命致しました。有難い
法縁に逢わせていただき、御法愛を
賜ったことを深謝申し上げます。
とりわけ、昨年七月十七日益田
市に於いて大本山總持寺二祖峨山
韶碩禪師六百五十回大遠忌予修法
要が執り行われましたことは、まさ
に勝縁といえます。御導師に大本
山永平寺福山諦法貫首猗下をお迎
えし、「相承」をテーマに宗侶・檀
信徒ともに心をあわせて勤修され
改めて二祖様の報恩行の遺徳をお
偲び致します。

さて、昨今、残忍な事件の報道
を耳にすることが増えてきたように
感じられます。私は四十年以上幼
児教育に携わる機会をいただき、加
害者には自尊感情(自己肯定感)が
きちんと育まれていないことが多分
にあるように思えます。

乳幼児期に愛情たっぷり注が
れて育つことで自尊感情が育まれ、
自尊感情の育ちがあつてこそ自分
自身のいのちの大切さ、更には他の
いのちの尊さに目覚めることができ
るといわれます。

学人として、長年来園児とともに
道

管区長就任挨拶



山口県宗務所 所長
荒木 玄修

中国管区内諸老師におかれまし
ては、ご清祥にて四衆接化にご精進
の御事と拝察申し上げます。

昨年十二月に、多々良問題、自
然災害等、様々な問題に真正面か
ら取りくみ、身心を削りながら三
期十二年間務めあげられました吉
川俊雄老師の後を受け、山口県宗
務所所長に就任させていただきました
。又、輪番制とはいえ管区長と
いう大役に就かせていただく事とな
りました。

何分、浅学非才なりて甚だ恐縮
しておりますが、管区内諸大徳のご
法愛、ご教導を賜わりながら至心
に務めさせていただく所存です。何
卒宜しく御願ひ致します。

前管区長 鳥根県第一宗務所所
長 永見老師におかれましては、
そのお人柄、深き道心よりあふれ
る実行力により、昨年七月、益
田市グラントワで厳修されました、
大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師様
六百五十回大遠忌予修法要を無事

大円成されました事に感謝と敬意
を申し上げます。

さて今、私達は檀信徒を含め一般
の方の信仰心の希薄化と宗教離れ
という問題に直面しております。

原因は様々あるでしょうが、一
つには、人口の大都市集中による
過疎化、大家族生活から核家族へ、
さらに個々の生活へと移ってしま
した。その中で幼少期から大人にな
るまでに、手を合わす、という環境や
機会が激減している事でしょう。少
子化という事もあるでしょうが、両
親やおじいちゃんおばあちゃんに連
れられて、お寺で小さな手を合わせ
拝むかわいい姿を見かける事が少な
くなりました。

また一つには、私達僧侶が世俗化
しすぎ、聖職性が薄れ、敬いの対象
からはずれてきているのではないで
しょうか。

もう一度、脚下を見つめなおし、
揺るぎなき信仰心と確固たる道心
を貫き、社会の範となるよう心がけ
ていきたいものです。

共々に考え、意見を交わしながら、
慈悲心あふれる社会と、子ども達
が自然にお寺まいりできる環境を
整えていけますよう、敬いと和合の
中で歩んでまいりましょう。

岡山県宗務所だより

「宗務所条例」改定の取り組み

副所長 酒井 晃道

宗務所行政を遂行していくうちに、条例と実態との間で差違が生じていました。そこで問題点を洗い出し整合性を持たせました。また、危機管理の視点から検討を加えました。将来起こりうる諸問題に迅速に対応できるように、条文の追加、関連する諸規定の整備をしました。主なものは、二つの特別会計の創設です。

一つは「宗務所維持管理基金」です。

私たちの財産である宗務所を、将来に亘って維持管理していくための営繕金積立です。

なお、この基金は、緊急事態等で、どうしても対策費が必要ときには、運用することができるとなりました。但し、一定の歯止め事項は付け加えておきました。

二つめは、「災害見舞基金」です。

管内寺院に甚大な災害があった場合に、見舞金を程度に応じて給付するものです。

また、広域の大災害等で、本宗務所に災害対策本部が設置されたときには、この基金を使って本部の運営をします。更に、他の宗務所に災害対策本部が設置された場合には、災害義援金として拠出できるようにしました。

本年度は百五十万円計上しました。基金不足は否めませんが、やっとな踏み出したところ。更に、今後運用していくための細則も必要になります。課題は山積しています。

広島県宗務所だより

二十六年行事活動報告

教化主事 稲角 道雄

《檀信徒地方研修会》

十月二十二日、二十三日にかけて、庄原市徳雲寺様・尾道市天寧寺様を会場として、西田正法老師をお招きし講話をいただき併せて「二祖峨山韶碩禪師六百五十回大遠忌」予修法要を厳修。両会場で約三百五十名の檀信徒研修会でした。

二十七年度は、十月十四日、十五日で開催予定。

《檀信徒本山研修会》

十一月八日、十日にかけて、約八十名の檀信徒共に「大本山永平寺」様に参籠し、下山後は大乗寺様に参拝研修。

二十七年度は、十一月十八日、二十日にて「大本山總持寺」様に研修予定。

《宗務所人権学習・現職研修会》

十一月二十五日、二十六日にかけて、人権学習会は、鳥取県宗務所人権擁護推進主事、小林憲充老師をお招きし、「当たり前の当たり前の事」と題して講演をいただきました。

現職研修会は、総合研究センター所長、大谷哲夫老師をお招きし、「従容録」講義を拝聴しました。

二十七年度は、十一月十日、十一日にて開催予定。

《梅花》

鳥根県カミアリーナでの全国奉詠大会には約百五十名の講員参加。県大会は、七月六日、竹原市民会館にて開催し、講員役五百名参加。清興として、津軽三味線の演奏。

《寺族会》

六月十三日の総会、秋季研修会は、世羅町甲山保険福祉センターを会場として開催。

山口県宗務所だより

敬いと和合

教化主事 山本 昌男

山口県宗務所は、三期十二年務められた吉川前所長が退任され、元副所長兼教化主事の荒木玄修新所長のもと全七名で務めることとなり、また、輪番である管区の職務もお引き受け致しており、管区内の皆様方には色々とお世話になります。

当宗務所では「敬いと和合」というテーマのもと、迅速丁寧な宗務所行政はいまでもなく、僧侶の基本である「帰依僧和合尊」を旨とし、個々の信頼関係はもろんのこと、東日本震災のとき具現化できた、様々な諸問題に対して、宗務所のみならず、青年会や寺族会などの関係諸団体と方向性を共有し、それぞれができる活動にそれぞれが協力し、各団体が単一的な活動で終わることなく、山口県の曹洞宗関係者が一丸となり社会に貢献できる。様々な事案に対し、そのお手伝い、そのコーディネートができればと考えているところでございます。

なお、前期よりスタート致しました「傾聴レホン活動」も、「人の心に寄り添う活動」として高い評価をいただいております。引き続き毎月曜日(お盆、お正月期間・休日はお休み)人権擁護推進委員の活動として、有志の方のご協力も頂きながら進めてまいります。

なにごんスタートしたばかりで、各主事とも事務に不慣れではございますが、よろしくお願ひ申し上げます。

鳥取県宗務所だより

宗務所行事計画

教化主事 杉本 俊正

昨年十二月、現宗務所が開所して数ヶ月が経ちました。教化主事として日々、慣れない業務に戸惑いながら努めております。

一月末に開催致しました、宗務所布教委員会では、日頃布教について困っていることについて意見を交わしました。その中で多くの意見が、「子どもの数が減ったこともあり集まりが悪い」、「最近の子ども達も忙しく、また学校等の協力が得難く活動しにくい」といったものでした。昔とは違う現状の中、工夫と努力を怠らないことを確認しました。

この先、六月には、特派布教、宗務所布教講習会、護持会総会、婦人会総会があり、七月には檀信徒本山研修会があります。この度は總持寺様大遠忌にあたり、焼香師団参としております。八月に徒弟研修会、九月は現職研修会、十月は檀信徒地方研修会を開催します。梅花関係では、三月に第四十七回奉詠大会、十一月には、特派講習会が開催されます。人権関係では、七月に宗務所人権学習会、また現職研修会の中に人権学習会を取り入れます。

今年度の教化、梅花、人権関係の主な行事をあげてみました。現宗務所としては初めての開催となります。多くの方々に参加して頂きたく、私たちにとって、今、何が求められているのかを十分に踏まえて、実りある行事にしていきたいと考えております。微力ながらも、努力を積んでいく次第です。

島根県第一宗務所だより

宗務所活動報告

教化主事 和田 善明

平成二十四年十二月より二十六年十二月まで、当宗務所宗務所長が管区長を務めてまいりました。この間、皆様方の多大なるご支援をいただき、諸行事が無事に終えられたことを感謝いたします。

当宗務所内において、最も大きな行事は、七月十七日に不老閣下御親修で行われた「大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六百五十回大遠忌中国管区予修法要」です。併せて「中国管区集会」が開催されました。清興として、やなせなさんのコンサートが行われました。大勢のご参加とご助力をいただき、盛況のうちに円成できました。

宗務所行事については、例年通りの活動をしました。教化関係については、六月に特派布教巡回、九月に檀信徒本山研修会、十月に現職研修会、十一月に寺族研修会、二月の島根県第二宗務所との共催による島根県布教講習会等の行事を予定通り行いました。

人権関係は、八月に人権擁護推進委員会研修会、福山市から広島市を訪問し平和についての研修しました。九月に、宗務所内全宗侶寺族を対象として「人権啓発学習会」を開催しました。梅花関係は、十月の特派巡回、三月の宗務所奉詠大会など順調に務めることができました。

島根県第二宗務所だより

平成二十六年行事の概覧

教化主事 板倉 省吾

九月六日(土)～七日(日)の現職研修では、これまで継続してテーマにしてきた「自死」の問題を再掲し、伊藤皓元所長(当時)による基調報告の他、弁護士の高澤努氏から「自死遺族支援に携わって」と題したご講演を頂きました。

十月二十二日(水)～二十三日(木)には、曹洞宗婦人会の中国管区大会が松江市で開催され、「ギター和尚」として有名な渡辺紀生師(熊本県・向陽寺住職)による説法などが行なわれ、管内より二八名の方々が参加下さいました。十月三十一日(金)の檀信徒地方研修会では、元・臨済宗妙心寺派宗務総長の松井宗益老師を講師にお迎えし、約五百名の聴衆に、「良い顔をつくる」と題したご講演を頂きました。

また、昨年度に引き続き人権擁護推進標語ポスターを企画。約百点余りの応募数の中から「私から 笑顔で言おう ありがとう」という標語を最優秀作品に選定して、ポスター制作を進めています。

平成二十六年度の行事を振り返る時、なんと言っても五月二十八日(水)～二十九日(木)に開催された、梅花流全国奉詠大会のことに触れないわけには参りません。全国から延べ八千人の梅花講員がご参加され、スタッフも百三十人余り(島根県第一宗務所も含む)と、宗務所が携わった行事としては、おそらく前後に例を見ない大規模の大会となりました。また、この間の地元観光資源への恩恵も大変大きなものがありました。この場をお借りして、改めて、ご来県頂いた全国の宗門御寺院様、梅花講員の皆様、衷心より御礼を申し上げます。

私と曹洞宗のみなさまとの出会いは、今から二十数年前の平成五年、NHK文化センターが、広島市に誕生した一年後のことでした。カルチャースクールとして、「こころの講座」をつくりたいと考えていた私の前に、田中哲彦(現統監)老師と、村上邦雄(元主監)老師がお見えになり、人生や世の中についていろいろと話をした結果、「禅のこころ」と「坐禅」の二講座を設けることになりました。始めは順調でしたが、残念なことに両講座とも受講者が激減し、数年後には閉講になってしまいました。

その後は、村上老師に「八正道」「五観の偈」や自坊「摩訶衍寺」のご本尊・国重文の「十一面観音立像」について教えていただくなど、細い糸で繋がっていましたが、平成二十年の初め、村上老師から突然連絡があり、「曹洞宗の広報活動として、ラジオ番組を作りたいので、企画委員として参加して欲しい」との依頼がありました。幾度か固辞したのですが、村上老師の強い要望に抗しがたく、お引き受けしてからは、はや七年が経ちました。第一回の企画委員会でも申しあげたことが、今でも鮮明に脳裏に残っています。

それは「ラジオの聴取者は、一般のみなさんです。曹洞宗の言葉では

なく、世の中の人々が理解できる言葉で話しかけましょう」でした。暫くの間は、「難しい言葉」が並ぶことが多かった原稿が、委員の老師のみなさんのご努力がみのり、最近は判りやすい言葉の原稿がほとんどなのは、嬉しいかぎりです。

さて、今回の「禅フォーラム・イン広島」に参加して、最初に感じたことは、若い方から、ややお年の方まで、幅広い世代に亘って、百名ちかい人々が参加されたことです。関係者のみなさんのご努力・ご苦勞に賛辞を贈りたいと思います。

安仁屋宗八氏の講演はRCCの久保泰彦氏との対談にされたことが、聞く人に大変判りやすくなったと思います。本土復帰前の沖縄での大変な苦勞、そしてカーブに入ってから先の精進、なかでも一番こころに響いたのは、二軍監督・一軍コーチと、指導者になった時に、「先ず、選手の性格を把握することにつとめる」こと、性格が判って初めて、その選手を大きく育てるには、「叱る」のか「褒める」のかなど、指導方法が決まるの言葉でした。

このことは、野球だけではなく、すべての人生にそのまま当てはまることです。私のこれからの生き方の大きな指針になりました。



紙上法話

十四番目の月

センター布教師 西禅寺住職 小川裕史



『何事も、自分の思い通りにはいかない』そんな当たり前の事が、はずかしながら五十八年生きてきて最近やっと分かってきました。家族が多いと楽しいことも多いのですが、その分思い通りにいかないことも多く、落ち込んでしまいます。そんな時いつも私を勇気づけてくれるのが徒然草の『總て何も皆、事の整ほりたるはあしき事なり』の一句です。四世代の大家族で暮らしているお檀家さんのお祖母ちゃんからご供養を頼まれました。よくよく聞いてみると『今年、御先祖様の年回は無いけれど孫たちの結婚が決まったり曾孫が生まれたり、とにかく良いことばかりが続きます。だから御先祖様にお礼のご供養をさせてもらいたいと思います。子ども、孫全員を集めるので、お話をしてほしい』と言われるのです。

法事当日は、遠方からの家族も集まり、お仏壇の部屋には、赤ちゃんの泣き声も聞こえる楽しく温かい雰囲気でした。私は、赤ちゃんの泣き声も聞いてお話をさせて頂きました。第八十二段に『為残したるを、さて打ち置きたるは、面白く、生き延ぶる事なり。内裏造るにも、必ず作り果てぬ所を残す事なり』とあります。

日光東照宮の陽明門は逆柱があることで知られています。柱の中の一本だけが彫刻の模様が逆向きになっています。しかしこれは誤って逆向きにしたわけではなく、「建物は完

成と同時に崩壊が始まる」という言い伝えを逆手にとり、わざと柱を未完成の状態にすることで災いを避けようとしたものだと言われています。完全なものは決して良くはない、それで内裏を造る時でさえも、必ず一か所は造り残しをしたそうです。また江戸時代には、家を建てる時「瓦三枚残す」といわれています。平成を生きている私達にも通じる先人の知恵を感じます。

お話の後、お茶を頂いていた時、熱心に聴いて下さって一人のお嫁さんが、私に話して下さいました。介護真つ只中の彼女は、ある日のこと精神科医の講習会に行つてこんな話を聞いたそうです。『介護の満点は六十点』それを聞いて肩の力が不思議にすつと抜けたそうです。避けて通れない親の介護であれば誰しも百点を望みたくありません。でも数年、数十年続きますと介護される方も、する方も疲れ果ててしまいます。無理をせず、ぼちぼちと、そんな励ましたかったです。

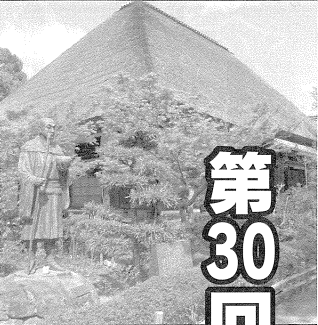
最高とされる満月の夜を過ぎても、十六夜、立ち待ち月、居待ち月と不完全なものにも情趣を見出してきたご先祖様の心に暖かさを感じます。

『つぎの夜から欠ける満月より 十四番目の月がいちばん好き♪』
これは私の車で流れる、ユーミンの歌ですが、今夜見上げた月が、どんな形でも愛でる心を持ちたいものです。

第30回 子ども禅インサマーセミナー in 岡山・国民宿舎良寛荘

平成二十六年七月二十八日(月)～三十日(水)

講師 岡山県洞松寺住職 鈴木聖道 老師



私を感じたこと

指導員 清涼 晃輝

今回、私は指導員として『子ども禅インサマーセミナー』に初めて参加しました。

私が今まで体験した子ども参禅会は、規律を重んじ厳しく指導するスタイルです。最初にお寺等で辛抱強く修行し、後に遊びをする日程は、修行と遊びを別々にしたものでした。

しかし、当会は、遊びの中に坐禅や円通寺参拝等を入れ、遊びながら慈悲の心や協調性を育てていくスタイルです。仲良く集団生活を送っていく事を大切にしました。勿論、甘やかすわけではなく、やってはいけない事は厳しく指導致しました。

スタンツで会長賞を受賞された班は、馬跳びでキャンプファイ

ヤーを一周するというものでした。最初は、一人一回ずつ跳んだら十分だと思いましたが、途中気が緩み一喝されましたが、一周するまで何度も跳び続けている姿を見ていると次第に微笑ましくなりました。跳ぶ人の身体や能力を考えて自分達で跳ぶ台を調整するので、年上の者が年下の者を気遣い、それに頑張る低学年の子ども達がいきました。運動の得意な子どもと苦手な子どもがいましたが、そんなことは問題ではありませんでした。班員一同が力を合わせ、最後までお互いを認め支え合いながら成し遂げようとする姿に深く感動致しました。

開会式で田中会長が「この会は、お坊さんやお寺を身近に感じ、親しんで頂きたい思いで開催しました。みんな怪我のないように、元気に、仲良くしましょう。」とお言葉の意味を私は深く噛みしめました。

お坊さんやお寺を身近に感じ、親しんで頂きたい思いで開催しました。みんな怪我のないように、元気に、仲良くしましょう。」とお言葉の意味を私は深く噛みしめました。



円通寺 仁保哲明老師

子ども達から、仲間を大切に、仲良くすることを学びました。最後に、皆様と出会えてよかったです。誠にありがとうございました。



鈴木聖道老師

感謝する事が大切

六年生 檀上 晃舜

僕が子ども禅インサマーセミナーに参加したのは、今年で六回目となります。

サマーセミナーでは、

「感謝をする事が大切だ。」

ということを学びました。食事をする前にお坊さんとお話しして下さったように、目の前にお坊さんやお寺は、いきなり現れたのではなく、野菜やお米を育てて下さった方や、それをお店に運んで下さった方、それにその食材をお料理して下さる方がいらっしやるからこそ、僕達は、お食事が頂けるんだという事が強く心に残りました。僕は今後、お料理を残さず食べようと決心しました。

僕は、今年班長という大事な役割を任せられました。班長は、一人の力だけでは務まらない事を知りました。つまり班の人や指導員の先生、周りの人の協力が無いと班長は務まりませんでした。僕達の班の人は、ふざける時もあったけど、いざという時には気がきく人達で僕が重い荷物を持っていたら持ってくれたり、ちゃんと僕の指示にしたがってくれ、とてもうれ

しかったです。

ぼく達の班のスタンツは、岡山にちなんで桃太郎をすることにしました。スタンツが決まると皆やる気満々で皆が協力してスタンツの練習をしていました。指導員の先生も面白くするためにどうしたらいいかなど、真剣に向き合って下さいました。練習時間は短かったけれど、皆盛り上がり過ぎてくれたので良かったです。それも班のみんなと指導員の先生のおかげです。ありがとうございました。

二泊三日、あの班のメンバーで本当に良かったと思ってます。それと、すばらしい三日間、楽しかった内容を考えて下さった教化センターの方々、並びに、セミナーをサポートして下さいました皆さん、どうもありがとうございます。来年は中学生になるけれど、参加できたら参加したいです。本当にありがとうございました。



本庁主催

平成二十六年十月八日
於・鳥取県倉吉市
「鳥取県立倉吉未来中心」



●鳥取県宗務所
宗務所護持会副会長
第四教区護持会長

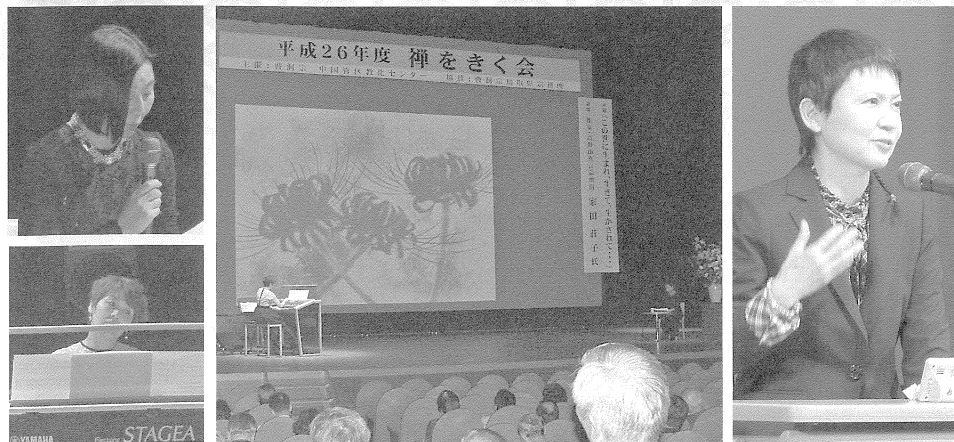
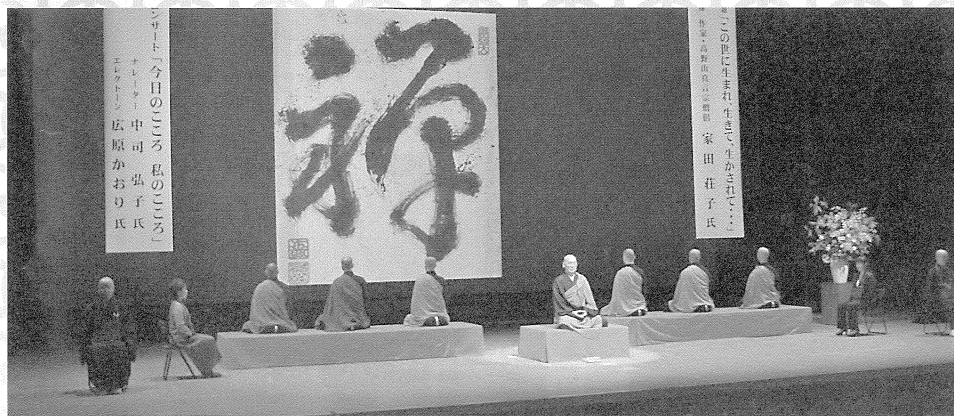
河本義永

倉吉未来中心において、「禅をきく会」が催され、講演「この世に生まれ、生きて、生かされて…」の話が聞かれました。講師家田荘子氏の題名があまりにも大きく、宗教哲学でも語られるのかと思いい席をたぬらいました。話を聞き、さすが布教師ということで話の組み立て、内容共に素晴らしい、理解しやすい話でした。

日常生活の中で自分が生まれて来た必要性は、毎日の生活の目標を持ちながら努力しているとは云え、あまり深くは考えないで送っていて、生かされているという感覚は大病の経験もなく、人間生活の結びつきも普通、神仏との結びつきも普通であってみれば、あまり深く考えないで生活している為か「生かされて」いるという事を感じる事なく生活しています。
只、仏教とのかかわりの中で「縁なき衆生は救われぬ」ということで、生活の中で仏縁を意

識しながら、より近づけるよう生活しています。
話を聞き改めて毎日の生活を見つめ直し、人生を意義あるものになりたいと考えるようになりました。
一方、「トークコンサート」

は初めての機会でした。ナレーターの声が静寂の中で心に響く語りかけ、一方エレクトーンはその中で、ナレーターの話と一体感を感じさせるもので素晴らしいものでした。機会があれば、又、参加したいと考えています。



禅をきく会

講師

武田邦彦氏



●岡山県宗務所
教化主事
山本道雄

曹洞宗中国管区教化センター主催の「禅をきく会」が、十一月二十六日(水)、高梁市の「高梁総合文化会館」で開催されました。

前に行われた宗務所主催のこの会は、県南部の倉敷市真備町「マービーふれあいセンター」で開催しました。今回は県中部での開催です。宗務所とも近く、JR備中高梁駅から徒歩でも可能、駐車場も十分完備され、吉備国際大学もある文化の町に、この日、約六百名が会場につめかけました。

午後一時、統監田中哲彦老師の開会あいさつがあり、引き続き、いす坐禅です。野上厚徳主監による坐禅指導で、会場全体が静寂の世界になりました。舞台中央には統監老師、その左右に僧侶と吉備国際大学の学生が坐する中、統監老師の法話をいただきました。

次に講演、「自然と環境」と題して、中部大学特任教授武田

邦彦先生が舞台上に登場されました。

「環境を護るといつて人間のことでだけを考え、他の生物のことは考えていない。エネルギー問題も、あれがいけない、これはダメだという利権が絡んだ話に惑わされてはいけない」

先生のユーモアを交えての講演に、環境問題について新たな見方を勉強しました。
休憩後、トークコンサートです。「今日のこころ 私のこころ」

ら「ラジオ法話より宗務所管内宗侶の法話八話が、広原かおりさんのエレクトーン演奏を交えて、中司弘子さんの朗読によりなされました。

参加者からは、「あれだけ入っていたのに、物音一つしない坐禅に感動した」「なつかしい童謡、こころ温まる話に涙が出た」との感想をいただき、疲れのとれるさわやかな会となりました。

センター主催

平成二十六年十一月二十六日
於・岡山県高梁市
「高梁総合文化会館」



青少年教化指導者研修会

研修会に参加して



廣澤 努先生

護福祉士・NPO法人「セカンドチャンス」の副理事長であります高坂朝人氏に「償いの意味を考へながら償っていく」と題しまして非行を行っていた当時の話を拝聴致しました。画像等を用いながら当時の心境を踏まえお話されておりましたが、当時非行を繰り返していた方が現在では自分と似たような境遇の若者達を救おうとしておられるその活動と情熱に仏法という所の四摂法の実践を垣間見た気が致しました。

翌十九日には地元松江にてヨガ講師をされております田中禎子・吉岡かおり氏の二名より「寺ヨガのすすめ」ということでヨガの歴史・呼吸の仕方を教わり、実際に体を動かしながらのヨガの実践という形で講義を受けましたが慣れない動きと元来の体の固さのせいか体の節々が悲鳴をあげておりましたが、そう長い時間では無い割にはかなり良い汗をかかせて頂きました。ここ島根宗務所管内でも

実際にお寺でヨガを実践されている御寺院が数ヶ寺あることは聞いておりましたが、お寺というある種日常と異なる空間でのヨガというのは参加する方々にも新鮮でありましようし、お寺という所は意外にも敷居が高い所ではなく身近な場所だと知って頂くのに良い機会だと感じました。當山でもご指導頂ける距離に先生方が意外といらっしゃることが今回分かったので、今後當山の行事催し等に取り入れて、若い方々に「お寺慣れ」して頂き、當山での教化の足掛かりを作り出したいと思えます。



高坂朝人先生



平成二十六年六月十八日・十九日

於 松江市・ホテル栄道湖

メイン講師 NPO法人「セカンドチャンス」副理事長 高坂朝人氏

島根県第二宗務所 雲松寺 糸賀 一峰

センター布教協議会・講習会

布教協議会・講習会を終えて

私が修行を終えて初めて参加させて頂きました。講習会ということもあり、少し難しいお話をされるのかと思いましたが。しかし始めに講義をされた宗教間対話研究所所長、峯岸正典老師の講義は私にもわかりやすいようお話されており、非常に勉強になりました。特にキリスト教と佛教という二つ



峯岸正典老師

の異なる宗教がどのように歩み寄り、相互理解していくのかということをお話を、ご自身の経験をもとにお話されていたことが印象に残りました。また佛教を信仰している立場だけでなく、キリスト教を信仰している側からの佛教の印象や、国よっての信仰心の違いなど、峯岸正典老師の立場でしかわからないような貴重なお話をしていただき勉強になりました。

そして人権学習を担当された広島県宗務所副所長兼人権擁護推進主事であられる三好光天老師は、差別に関してのお話をされました。差別に関してのお話がどのように差別され苦悩し、そしてどのように人権を取り戻したのか、私達が普段何気無く耳にする政策や制度も、差別された方が並々ならぬ意志で勝ち取ったものであると改めて実感いたしました。この講義で様々な勉強をさせて頂きましたが最も勉強になったのが布教実演でした。普段法事等で檀家さんに法



三好光天老師

話させていただくことがあります。他の寺院の方の法話を中々聞くことが無く、どのようなお話をされるのか非常に興味がありました。実際に演説された方の法話は一人ひとり個性があり、話す早さや間など非常に勉強になりました。特に模範実演をされた峯岡俊徳老師とは同じ教区内であり、素晴らしい法話をされる方が身近におられるということは、非常に有難いことだと痛感致しました。

最後にこのような貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



平成二十六年九月十一日・十二日
於 広島市・アークホテル広島駅前
メイン講師 宗教間対話研究所所長 峯岸正典老師
広島県法常寺徒弟 神原 弘樹

曹洞宗婦人会中国管区研修会

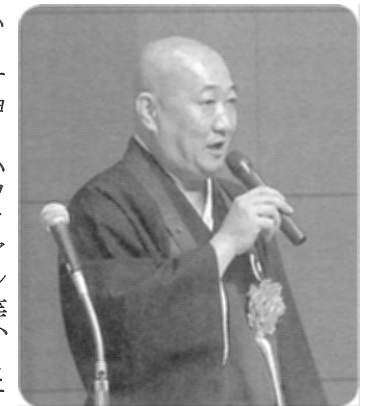
平成二十六年十月二十二日(二十三日)
 於 松江市・松江テルサ
 メイン講師 熊本県日向寺住職 渡辺紀生老師
 島根第二宗務所 安養寺婦人会 小藤加津子

十月二十二日、二十三日の両日、水の都松江市に於いて、曹洞宗婦人会中国管区研修会が開催されました。私も幸い参加の機会に恵まれ、約二百二十名の会員の皆様と貴重な二日間を過ごさせて頂きました。

一日目、開会式・オリエンテーションの後の講演は、熊本県向陽寺住職渡辺紀生老師の「ギター和尚のお元氣説法」と題したお話で、文字通りギターを弾きながら、笑顔程美しいものはない、もともととお寺に足を運んで話され、素晴らしい歌声と共に、元氣一杯頂きました。ご自身の作詞作曲の歌や、サンシャイン・ベサメ



渡辺紀生老師



小林憲充老師

ムーチョ・ハワイアン等、とてもバラエティに富んだものでした。講演の後は、きやら基金の報告・募金・SVA報告とスケジュール通りに進み、夜はコンサートを聴きながらの薬石、県内外の会員の方との親睦も深めることが出来、楽しい一時でした。

二日目、中国管区教化センター統監の田中哲彦老師の法話に始まり、鳥取県長徳寺住職小林憲充老師の「一期一会〜慈悲の実践〜」とNPO法人出雲学研究所理事長藤岡大拙氏の「神々の国・出雲」の講演がありました。丁度今月の島根は、神在月だったのでいっさなく興味深く勉強できたと思います。

この後閉会式が行われ散会となりました。今回の研修会を通じて、私達の命は頂いたもので大事にしなければならぬ、何事にも感謝しながら明るく元気に生きていかなければと感じました。最後にこの研修会開催に当たり、ご尽力ご苦労くださった役員の皆様、ありがとうございました。感謝申し上げます。




藤岡大拙氏



お知らせ

センター布教協議会・講習会	青少年教化指導者研修会
<p>■日時 平成27年9月8日(火)正午受付 13時開講～9日(水)正午まで</p> <p>■会場 岡山市 アークホテル岡山</p> <p>■講師 曹洞宗特派布教師 福島市長秀院住職 渡辺 祥文 老師</p> <p>■参加費 13,000円</p> <p>■対象 布教師・宗門僧侶</p> <p>■申し込み先 各宗務所</p> <p>■お問い合わせ 教化センター</p>	<p>■日時 平成27年6月18日(木)正午受付 13時開講～19日(金)正午まで</p> <p>■会場 山口県湯田温泉 梅乃屋</p> <p>■講師 大本山總持寺副監院心得 山口 正章 老師</p> <p>■参加費 12,000円</p> <p>■対象 青少年教化員</p> <p>■申し込み先 教化センター</p> <p>■お問い合わせ 教化センター</p>

曹洞宗ラジオ放送
 「今日のこころ 私のこころ」
ラジオ法話集 2014年版
 《1月～12月放送分》 52話収録



この度、1冊実費1,000円(送料込)で頒布いたします。5月末日までに曹洞宗中国管区教化センターまでお申し込みください。

平成27年度 **第31回** **子ども禅インサマセミナー**
 開催日 平成27年 **7/28(火)～30(木)**
 in 鳥取・三朝温泉 **ブランナールみささ**

講師紹介	太神楽曲芸師 豊来家大治朗 先生 天台宗僧侶 上方落語家 露の団姫 先生
参加費	子ども (中学生以下) 10,000円 [2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込] 大人 19,000円 [2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込]
集合時刻	7月28日(火) 午後12時半より受付 13時開会式
集合場所	ブランナールみささ (※宿泊も同所) 〒682-0123 鳥取県東伯郡三朝町三朝388-1 TEL 0858-43-2211
お問い合わせ先	主催:曹洞宗中国管区教化センター 〒722-0033 尾道市東土堂町17-29 天寧寺内 TEL (0848) 25-2855 FAX (0848) 25-4148 (ホームページ) http://kyouka-chugoku.com

◎公共機関の場合 JR山陰本線 倉吉駅よりお車・バスで約20分
 ◎車の場合 高速道路→米子自動車道→湯原ICより約40分、もしくは倉吉市内より約20分
 ※諸事情により内容が変更することもあります。ご了承下さい。

平成27年度事業計画

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

月	日	行 事	主 催	備 考
4	2(木)～3(金) 13(月) 17(金) 下旬	全国教化センター前期連絡協議会 教化活動推進委員会 センター布教師協議会 中国管区教化センター報第31号発刊	本 庁 センター センター センター	宗務庁 広島市 ホテルニューヒロデン 広島市 ホテルニューヒロデン
5	12(火)～13(水) 21(木) 22(金)	人権三者協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会 教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会	管 区 婦 人 会 センター センター	山口市 山口グランドホテル 広島市 アークホテル広島駅南 広島市 アークホテル広島駅南
6	18(木)～19(金)	青少年教化指導者研修会	センター	山口市 梅乃屋
7	6(月)～7(火) 28(火)～30(木)	管区役職員人権啓発研修会 第31回子ども禅インサマーセミナー	管 区 センター	山口市 山口グランドホテル 鳥取県三朝町プランナールみささ
8				
9	8(火)～9(水)	センター布教協議会・講習会 教化資料等企画制作委員会	センター センター	岡山市 アークホテル岡山 広島市
10	1(木) 26(月)～27(火) 30(金)	禅をさく会〔管区センター主催〕 曹洞宗婦人会中国管区研修会 教化活動推進委員会	センター 婦 人 会 センター	山口市 山口県総合保健会館 岡山県 鷲羽ハイランドホテル 広島市
11	17(火)	全国教化センター後期連絡協議会 禅をさく会〔本庁主催〕	本 庁 センター	宗務庁 雲南市 加茂文化ホール ラメール
12				
1	下旬	中国管区教化センター報第32号編集会議	センター	
2		教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会 第2回 禅 forum in 広島	センター センター センター	広島市 広島市 広島市
3				

10月20日(火) 4月～3月(毎週土・日) 4月～3月(第3水曜日) 2月4日(木)～5日(金)	峨山韶碩禅師650回大遠忌法要 ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」 山陰中央新報文化講座「禅のこころ」 布教委員長会議	曹 洞 宗 センター センター 管 区	大本山總持寺 RCC中国放送(キー局) 松江市 山陰中央新報文化センター 山口県宗務所管内
--	--	------------------------------	--

■センター役職員

統 監	田中哲彦	聖 光 寺	〒732-0048 広島県広島市東区山根町29-1	☎(082)264-1220
主 監	野上厚徳	西 林 寺	〒722-0061 広島県尾道市百島町1222	☎(0848)73-2720
賛 事	檀上一祥	吉 祥 寺	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719
賛 事	藤尾純也	観音寺徒	〒716-0311 岡山県高梁市備中町平川6777	☎(0866)45-2003

編集後記

昨年度、中国管区教化センターでは、新たに二つの事業を開始致しました。

一つ目は、山陰中央新報社文化センター松江教室での文化講座「禅のこころ」です。地元宗務所様による受講生の勧誘と、講師をお務め下さるセンター布教師様のご協力を得て、毎月第三水曜日に講義が行われています。

もう一つは、広島市での講演会「禅 forum in 広島」です。お陰をもちまして、多くのご参加をいただき、いす坐禅の実践、そして講師に元カープ投手の安仁屋宗八氏をお招きして講演を賜りました。

引き続きの会食懇談会では、参加者皆様積極的にセンター布教師様、ご出席下さった宗侶の皆様、仏事作法やお仏壇のお祀りの仕方、お墓の移転等々、尋ねておられました。

講演の中で安仁屋さんから、「人の好き嫌いを作らず、誰とも同級生のつもりで付き合っています」というお話がありました。常日頃多くの方々と接する私ども僧侶も、肝に銘ずべき事と感じております。

これからも、長く皆様方に親しんで頂ける事業となります様に、役員一同、研鑽・精進して参ります。一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。